

わたしたちの周りは入るな「音」であふれています。
例えば丸めたサララララップ（耳を近づけてみると微妙な音が聞えませんか?）。このワークショップでは見慣れたものやなにげなくやっていることを少し工夫しつつ、「耳で知る」世界をみなさんと発見できたらと思っています。特別な能力や技術はいりません、好奇心を持って来てください。

mamoru, yamasaki ami

2015.8.22.sat 10:30-12:30

2015.8.23.sun 10:30-16:30

必要なものはすぐに買ってしまうような便利な時代。それでも人々は日々創造して暮らしているはず。街角や家にあふれている、人々の、その人らしい想像から生まれたものたちに目を向けてみよう。

「冷蔵庫の残りモンで、とりあえず、チャーハンを作る」・「フタがないから、とりあえず、皿をかぶした」・「食べた後のお菓子箱を、とりあえず、入れモノにしている」・「グラグラするので、とりあえず、隙間に紙を折って挟んだ」など、日常にあふれている“とりあえず”を観察してみよう。「とりあえず」という言葉には、「まず第一に」という意味と共に、「間に合わせの」という「即席」で「仮設」的な、ある意味「適当さ」が含まれています。ちょっとした工夫から生まれてくる“とりあえず”の美しさや面白さを見つけ、街や家で密かに生まれては消えていくものたちの「とりあえず観察」の発表をみんなで見ましょう。

shitamichi motoyuki

2015.8.12.wed 13:30-16:30

2015.9.6.sun 13:30-16:00

「日常とりあえず観察」 講師：下道基行(美術作家/写真家)

必要なものはすぐに買ってしまうような便利な時代。

それでも人々は日々創造して暮らしているはずだ。

街角や家にあふれている、

人々の、その人らしい創造から生まれたものたちに目を向けてみよう。

・「冷蔵庫の残りモンで、とりあえず、チャーハンを作る」

・「フタがないから、とりあえず、皿をかぶした」

・「食べた後のお菓子箱を、とりあえず、入れモノにしている」

・「グラグラするので、とりあえず、隙間に紙を折って挟んだ」

など、日常にあふれている「とりあえず」を観察してみよう。

「とりあえず」という言葉には、「まず第一に」という意味と共に、

「間に合わせの」という「即席」で「仮設」的な、

ある意味「適当さ」が含まれています。

ちょっとした工夫から生まれてくる「とりあえず」の美しさや面白さを見つけ、

街や家で密かに生まれては消えていくものたちの

「とりあえず観察」の発表をみんなでしましょう。

2015年8月12日(水) 13:30~16:30

2015年9月6日(日) 13:30~16:00 ※2回でひとつのワークショップです。

—

対象：中学1年生~高校3年生(2日間参加できる方)

定員：15名(応募者多数の場合は抽選)

しめきり：2015年8月4日(火) 必着

参加費：無料

場所：国立国際美術館

下道基行(したみち・もとゆき)

<http://m-shitamichi.com/>

1978年岡山県生まれ。2001年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。2003年東京総合写真専門学校研究科中退。幼い頃、近所の崖に貝塚を掘りに出かけた古墳に関心を持ち、考古学者になることに憧れていた。現在では、写真や文章を表現手段に、モノ/コトの残り方消え方、それらを内包する風景の在り方など、目の前に広がる風景に興味を持ち、旅やフィールドワークをベースに、考古学や考現学や民俗学などにまたがる表現を続けている。

「リッスン 一耳で知る」 講師：mamoru(アーティスト)、山崎阿弥(声のアーティスト、映像・造形作家)

わたしたちの周りにはいろんな「音」であふれています。例えば丸めたサラララップ(耳を近づけてみると微かな音がきこえますか?)。このワークショップでは見慣れたものやなにげなくやっていることを少し工夫しつつ、「耳で知る」世界をみなさんと発見できたらと思っています。特別な能力や技術はいりません、好奇心を持って来てください。

2015年8月22日(土) 10:30~12:30

—

対象：5歳~小学2年生とその保護者

定員：8組16名(応募者多数の場合は抽選)

しめきり：8月12日(水) 必着

参加費：無料

持ちもの：「音の出るもの」を3~5個と「音の出ないもの」を3~5個

場所：国立国際美術館

まず、美術館の中で耳の散歩をします。歩いているうちにさまざまな音と出会ったり、動かずにじっと耳を澄ませて音を迎へに行ったり。また、いつもは「見る」だけの絵や写真の世界の音を想像したり、みなさんと持ち寄る「音が出ない」ものから音を出したりもします。ふだんとは少し視点を変えて耳で見つける・想像する・作るワークショップです。

2015年8月23日(日) 10:30~16:30

—

対象：高校生以上ならどなたでも

定員：20名(応募者多数の場合は抽選)

しめきり：8月12日(水) 必着

参加費：無料

持ちもの：「音の出るもの」を3~5個と「音の出ないもの」を3~5個

場所：国立国際美術館

このワークショップでは22日の内容に加え、さらに言葉を使いつつ「想像の音」も取り込んでみたいと思っています。例えば「忍び寄る足音」。今この言葉を読んで何か音を想像しませんでしたか? 少なくともこの言葉を読む「声」が頭の中できこえていませんか? そう、そんな「音」にも耳を傾けます。

mamoru(まもる)

<http://www.afewnotes.com>

1977年大阪生まれ。2001年ニューヨーク市立大学音楽学部卒業。身近な物や行為から生まれる微かな音をとりあげた「日常のための練習曲」や架空の「音風景」を書きおこした「THE WAY I HEAR」など、テキスト、インスタレーション、映像、パフォーマンス等、様々なメディアを用いて「聴くこと」から知覚するオルタナティブな世界観を提示。現在、ハーグ王立芸術アカデミーのマスター・アーティスト・リサーチ在籍中。

山崎阿弥(やまさき・あみ)

<http://amingez.wix.com/ami-yamasaki>

声で空間の陰影を感じしインスタレーションやパフォーマンスによってその濃淡を引き出したり/失わせたりすることを試みる。生声演奏演出(燃える人影)、日英合作舞台(steping stones)への出演、灰野敬二、坂田明、外山明、松島誠らとのデュオ、伊勢神宮での歌唱、七里圭監督作品への出演、沢口真生とのサラウンド音楽制作など多分野にわたり共創する。2013年はロイヤルメルボルン工科大学と国際芸術センター青森にレジダンス、パフォーマンスとインスタレーションを制作、16年は「亡霊(仮称)」展(京都・瑞雲庵)に出展予定。

【お申し込み方法】

往復ハガキで下記の宛先までお申し込みください。

ハガキには、1) ワークショップ名、2) 参加希望日、3) 氏名(ふりがな)、4) 郵便番号・住所、5) 電話番号、6) 学年あるいは年齢、7) 今回の情報をどのように得られたか、をご記入ください。

*往復ハガキの返信面には必ず住所とお名前をご記入ください。

*ご家族、ご友人など、グループでの参加希望は、必ず一枚の往復ハガキでお申し込みください。

その際、参加者全員の必要事項をご記入ください。

*応募者多数の場合は抽選の上、結果を後日お知らせします。

【しめきり】

「日常とりあえず観察」：2015年8月4日(火) 必着

「リッスン 一耳で知る」：2015年8月12日(水) 必着

*しめきり後でも、定員に達するまで受け付けていますので、お問い合わせください。

宛先：〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55 国立国際美術館ワークショップ係



【当館への交通について】

- 京阪電中之島線「渡辺橋駅」(2番出口)より西へ徒歩約5分
- 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)より西へ徒歩約10分
- JR「大阪駅」、阪急電車「梅田駅」より西へ徒歩約20分
- JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」(2番出口)、阪神電車「福島駅」(3番出口)より南へ徒歩約10分
- 地下鉄御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」(7番出口)より西へ徒歩約15分
- 市バス「大阪駅前」より、53号・75号系統で、「田養橋」下車、南西へ徒歩約3分
- 「淀屋橋駅」(4番出口・土佐堀通/住友ビル一号館前)より、中之島ループバス「ふらら」で、「市立科学館・国立国際美術館前」バス停下車すぐ

ワークショップ「リッスン ー耳で知るー」

2015年8月22日(土)10:30~12:30

2015年8月23日(日)10:30~16:30

講師:mamoru(アーティスト)、山崎阿弥(声のアーティスト、映像・造形作家)

わたしたちの回りはいろんな「音」であふれています。例えば丸めたサランラップ(耳を近づけてみると微かな音がきこえますか?)。このワークショップでは見慣れたものやなにげなくやっていることを少し工夫しつつ、「耳で知る」世界をみなさんと発見できたらと思っています。特別な能力や技術はいりません、好奇心を持って来てください。

2015年8月22日(土)10:30~12:30

対象:5歳~小学2年生とその保護者

定員:8組16名(応募者多数の場合は抽選)

参加費:無料

持ちもの:「音の出るもの」を3~5個と「音の出ないもの」を3~5個

場所:国立国際美術館

まず、美術館の中で耳の散歩をします。歩いているうちにさまざまな音と出会ったり、動かずにじっと耳を澄ませて音を迎えるに行ったり。また、いつもは「見る」だけの絵や写真の世界の音を想像したり、みなさんと持ち寄る「音が出ない」ものから音を出したりもします。ふだんとは少し視点を変えて耳で見つける・想像する・作るワークショップです。

2015年8月23日(日)10:30~16:30

対象:高校生以上ならどなたでも

定員:20名(応募者多数の場合は抽選)

参加費:無料

持ちもの:「音の出るもの」を3~5個と「音の出ないもの」を3~5個

場所:国立国際美術館

このワークショップでは22日の内容に加え、さらに言葉を使いつつ「想像の音」も取り込んでみたいと思っています。例えば「忍び寄る足音」。今この言葉を読んで何か音を想像しませんでしたか?少なくともこの言葉を読む「声」が頭の中できこえていませんでしたか?そう、そんな「音」にも耳を傾けます。

■講師プロフィール

mamoru(まもる)

1977年大阪生まれ。2001年ニューヨーク市立大学音楽学部卒業。身近な物や行為から生まれる微かな音をとりあげた「日常のための練習曲」や架空の「音風景」を書きおこした「THE WAY I HEAR」など、テキスト、インスタレーション、映像、パフォーマンス等、様々なメディアを用いて「聴くこと」から知りうるオルタナティブな世界観を提示。現在、ハーグ王立芸術アカデミーのマスター・アーティスト・リサーチ在籍中。 <http://www.afewnotes.com>

山崎阿弥(やまさき・あみ)

声で空間の陰影を感得しインスタレーションやパフォーマンスによってその濃淡を引き出したり／失わせたりすることを試みる。生西康典演出《燃える人影》、日英合作舞台《stepping stones》への出演、灰野敬二、坂田明、外山明、松島誠らとのデュオ、伊勢神宮での歌唱、七里圭監督作品への出演、沢口真生とのサラウンド音楽制作など多分野にわたり共創する。2013年はロイヤルメルボルン工科大学と国際芸術センター青森にレジデンス、パフォーマンスとインスタレーションを制作、16年は「亡霊(仮称)」展(京都・瑞雲庵)に出展予定。 <http://amingerz.wix.com/ami-yamasaki>

■申し込み方法

往復ハガキで下記の宛先までお申し込みください。

ハガキには、

- 1)ワークショップ名
 - 2)参加希望日
 - 3)氏名(ふりがな) ※22日は、お二人の氏名をご記入ください。
 - 4)郵便番号・住所
 - 5)電話番号
 - 6)学年あるいは年齢
 - 7)今回の情報をどのように得られたか
- をご記入ください。

※往復ハガキの返信面には必ずご住所とお名前をご記入ください。

※ご家族、ご友人など、グループでの参加希望は、必ず一枚の往復ハガキでお申し込みください。

その際、参加者全員の必要事項をご記入ください。

※応募者多数の場合は抽選の上、結果を後日お知らせします。

※しめきり後でも、定員に達するまで受け付けていますので、お問い合わせください。

■しめきり

2015年 8月12日(水)必着

■宛先

〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55 国立国際美術館ワークショップ係

問い合わせ先：06-6447-4680(代)

協力：YUKA TSURUNO GALLERY